

Noism Company Niigata の活動評価に関する有識者会議 意見まとめ

日時：令和 4 年 10 月 14 日（水）14：00 から

会場：音楽文化会館 練習室 10

活動評価について

- ・コロナ禍という不可抗力がある中で、一律的な定量的評価でいいのか。委員会としてはこの評価、とするか、C ならばコメントにわかるように標記するか、注釈等で痕跡を残しておくようにした方がよいのではないか。
- ・コロナ禍という不可抗力によるものについては、エクスキューズが認められてもいいのではないか。目標を下回ったからといって一刀両断 C 評価はどうかという懸念はある。定量的には目標を下回っているかもしれないが、緊急避難的な要素もあったと思う。そういった部分については記録として残し、不可抗力での範疇のことで評価が下がることはすべきではない。
- ・サマースクールについて、5 日間連続は参加者への負担が大きいということで見直しをしている。3 クラスを 3 日間連続ということで、機会としては十分に用意していると感じる。参加者も昨年度と比べ増加しているので、評価できるのでは。
- ・オープンクラスは Noism の団員全員で熱心で優れた指導などの対応をしており、内容で見れば B 評価を A 評価としてもよいのではないか。
- ・単年度ではなく、前年度からどのように変わったのかという継続的な評価も見ていくべき。コロナ禍があつて前年は入場者数が落ちているのかもしれないが、Noism1、2 の入場者数が回復しているということも評価してもよいのではないか。
- ・36 協定が遵守できなかった点については、時間が足りないというのは仕事の平準化ができなかったのか、それとも実質職員数が足りていないのか。C 評価をつけるのであれば、人員配置をするのか、人員配置をするならコスト管理にも影響してくる。
- ・共催事業、他館との連携を切り分けて評価せず、一緒でもよいのでは。切り分けると、1 つでも不足すると B 評価が C 評価になってしまう。

労務管理について

- ・よりよいものと思うと、時間を超過してしまう現状がある。いいものをつくりたいという意識をもって行っていることに対し、定量的な評価をどうしていくのか。今年度は新しくこういうことをやった等を報告の中に入れるなど、努力していることを顕在化し、評価してもらうようにした方がよい。

その他の活動内容について

- ・Noism 以外の作品の鑑賞とあるが、Noism 寄りのコンテンポラリーの作品を公演している。他のコンテンポラリー以外の舞踊について、知る機会のようなものがあるといいのでは。視点を変えたアプローチで、今後はいろいろな分野での舞踊公演の誘致を視野に入れて欲しい。

評価会議について

- ・資料から活動を分析してその後の活動に繋げていく、というのはレジデンシャルカンパニーならではの利点。あとあと文字と数字で残るものとして、単に評価だけでなく、注意書きなどもあった方がよいのではないか。
- ・評価がルーティン化してきていると感じる。会議に要する時間も短いため、安定期に入っているとも考えられる。一方でこの会議は、「新潟にとってNoism はどういう意味があるのか」をスタートとしているが、それは確認されたとも考えられる。このようなかたちでレジデンシャル制度を迎えながら新潟市が踊り文化を振興していくスタイルに対し、明確なビジョンを持って進めていく段階なのではないか。行政のビジョンとして踊り文化の振興を打ち出してもよいのでは。